

## 令和2年度第1回八千代市まち・ひと・しごと創生懇談会 会議録

- 1 開催日時 令和2年9月14日(月)午後1時30分から2時55分まで
- 2 場所 八千代市役所 旧館4階 第2委員会室
- 3 出席者 <委員>6名  
佐藤 俊恵委員, 田中 宏行委員, 上大川 順委員,  
田中 康弘委員, 島 勝彦委員, 町塚 栄介委員  
<事務局>5名  
小川企画部長, 加藤企画部次長,  
原田企画経営課主幹, 井澤副主幹, 赤川主任主事
- 4 議題 (1) 総合戦略に係る取り組み状況について  
(2) 第2期総合戦略について  
(3) その他
- 5 公開・非公開 公開
- 6 傍聴人 1名(定員5名)

## 【会 議 録】

- 1 開会
- 2 委員挨拶
- 3 議題

### (1) 総合戦略に係る取り組み状況について

#### ○田中座長

皆様こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、会議次第に基づき、議事を進めてまいります。

議題(1)「総合戦略に係る取り組み状況について」、事務局の説明を求めます。

#### ○事務局

それでは、議題(1)「総合戦略に係る取り組み状況について」、御説明させていただきます。恐れ入りますが、着座にて失礼いたします。

それでは、お手元にあります資料1-1及び資料1-2を併せてご覧ください。

八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、基本理念に「絆がる・創る“和”のまち 八千代」を掲げ、4つのプロジェクトから構成されており、24項目のKPIと、95項目の具体的な取り組みを計画に位置付けております。

本日は、各プロジェクトに掲げている主要なKPIと、それに対する主な取り組みにつきまして、御説明申し上げます。

はじめに、資料1-1,1ページの左上、「I.若い世代応援プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「保育園待機児童数」につきましては、基準値の42人に対し、令和2年4月1日現在で31人となっております。令和元年度の主な取り組みとしましては、幼稚園から認定こども園への移行や民間保育園の新設などにより、220人の利用定員の増加を図りましたが、平成30年度とほぼ横ばいの数字となっております。

2つ目のKPIの「学童保育所待機児童数」につきましては、基準値の173人に対し、令和2年4月1日現在で134人となっております。令和元年度の主な取り組みとしましては、学童保育所の小学校敷地内への移転及び新設や、既存の学童保育所の定員拡大により110人の定員の増加を図りましたが、平成30年度の100人から増加しております。

3つ目のKPIの「子育てしやすいまちと感じている市民の割合」につきましては、基準値の49.1%に対し、令和元年度は49.9%となっております。

令和元年度の主な取り組みとしましては、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行う「利用者支援事業」、出産直後の母子の心身のケアを行う「産後ケア事業」、アプリを活用した情報提供などを行う「やちよ子育て応援モバイル事業」などを行っております。

次に右上の「II.魅力創出プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「新川周辺が活性化していると感じている市民の割合」につきまして

は、基準値の40.0%に対し、令和元年度は49.3%となっております。

令和元年度の主な取り組みとしましては、印旛沼流域の4市2町で登録している「印旛沼流域かわまちづくり計画」の推進として、サイクリングやウォーキングなどの休憩する場所である一里塚として位置付けている阿宗橋周辺の整備に係る実施設計のほか、新川周辺を含め市域全体の観光マップである「八千代ふるさと親子まっぷ」の発行などを行っております。

2つ目のKPIの「市のイメージが良いと感じている市民の割合」につきましては、基準値の65.5%に対し、令和元年度は67.9%となっております。令和元年度の主な取り組みとしては、市の花「バラ」の普及・啓発のほか、情報発信ツールを用いた市のPRとして市公式フェイスブックの開始、空家等対策計画の作成などについて協議する組織を設置する「八千代市空家等対策協議会条例」を施行しました。

次に2ページの左上「Ⅲ. しごと応援プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「工業の年間商品販売額」につきましては、基準値から毎年向上している状況となっております。令和元年度の主な取り組みとしましては、商工会議所と連携した創業セミナーの開催や創業資金に係る融資に対する一部利子補給などを行っております。

2つ目のKPIの「ひとり親家庭の就業率」につきましては、基準値の88.8%に対し、令和元年度は91.6%となっております。令和元年度の主な取り組みとしましては、保育付き就職支援セミナーや女性向けのお仕事説明会の開催などを行っております。

右上の「Ⅳ. 環境整備プロジェクト」をご覧ください。

まず1つ目のKPIの「地域医療体制が整っていると感じている市民の割合」につきましては、基準値の52.2%に対し、令和元年度は52.4%となっております。令和元年度の主な取り組みとしましては、八千代医療センターにおける救急医療事業の推進などを行っております。

2つ目のKPIの「地域消防・救急体制が整っていると感じている市民の割合」につきましては、基準値の44.2%に対し、令和元年度は43.7%となっております。令和元年度の主な取り組みとしましては、高規格救急自動車1台の更新や幼児期からの火災予防の啓発などを行っております。

3つ目のKPIの「災害に備えた対策が適切に行われていると感じている市民の割合」につきましては、基準値の19.0%に対し、令和元年度は20.7%となっております。令和元年度の主な取り組みとしましては、防災行政用無線のデジタル化の推進や災害注意情報等のメール配信などを行っております。

最後に、各施策の進捗状況を測るために設定している24項目のKPIのうち、現時点で把握できる最新の数値での進捗でございますが、目標を達成しているKPIが5項目、基準値より向上しているKPIが17項目、基準値より低下しているKPIが2項目となっております。

以上で、議題(1)「総合戦略に係る取り組み状況について」の説明を終わります。

○田中座長

ただ今の事務局からの説明について、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

○島委員

資料 1-2 の「市街地整備の誘導が適切に図られていると感じている市民の割合」と「地域活動に積極的に参加していると考えられる人の割合」が、極端に実績値と目標値が乖離しているように思えるのですが、何か手というか、分析の状況はあるのでしょうか。

○田中座長

市街地整備の誘導が適切に図られているかの項目は、例えば道路の問題ですとか、そういったことが主なものでしょうか。

○島委員

解釈としてそれでよろしいのでしょうか。インフラの整備が整っていないということに対する割合でしょうか。

○事務局

定量的なものではなく定性的なものとして、市民の方へのアンケート調査を行った上での回答でございますので、具体的にどこの部分かまでの意見はありませんが、市街地整備の誘導におけるアンケートを受け取った方が感じているかどうかの割合で回答いただいた結果が 27.8%となっていて、基準値から比べますと若干上がっているところですが、目標値がかなり高い設定になっていて乖離があるところでもありますので、次の総合戦略の見直しなどに当たっては、目標値の設定について改めて検討や見直しが必要と考えております。

○田中座長

よろしいでしょうか。道路の問題ですけど、たしか上高野の方にある国道 296 号の八千代バイパスがまだ進んでいないですよ。国道 296 号が非常に混んでいますので、八千代バイパスの事業を進めていただいていると思いますが、国道 16 号につながるまでの八千代市部分 1.5km が、なかなか買収が進まず事業が進んでいないと聞いております。

その辺はどうでしょうか。

○事務局

実際のところ、高野川の河川整備を含めて検討を進めているところでございまして、高野川の整備につきましては、今回の議会において予算措置を一部している状況にあります。あの道路は橋に寄った整備となっているようでしたので、河川整備と併せて、先程お話のありました補償や買収の部分も含めて進めていかなければならないと考えております。こちらは順次進めてまいりたいと考えております。

○田中座長

お願いします。ほかにございますか。佐藤委員どうぞ。

○佐藤委員

唯一の女性ですので、女性として申し上げたいことがあるのですが、まず保育園の待機児童数と学童保育所の待機児童数について、子育て世代に来て欲しい市の方針と、増えるのがわかっていたのに、例えば5年かかって民間保育所が新設3か所とだけあって、どういった保育所なのか0歳児が入れるのかなど細かな資料が全然ないので、コメントのしようがないところが当然あります。

学童保育所についても、女性が働くことを一方で推進しながらまだまだ待機児童がいると。通っておられる方の意見であったとしても、満足しているのか、通っているから良いのかといったこともわからないような内容になっていまして、箱だけあれば良いことはおそらく無くて、今後質が問われていくのだらうと思います。0歳児から預かってくれる保育所があって内容が充実している市なのか、学童保育であっても、ただ遊ばせておやつを食べさせているだけではなく、色々な市民がその中に入ってきて交流が図られている学童保育を推進している自治体もありますので、そういうところと比べて見劣りすると、ただ人数だけ帳尻合わせてKPI達成しましたというのでは、若い世代の方はたくさん情報を取って色々回られて、どこに住もうかという世代の方が実際八千代市を選ぶのかと、心配になるような資料になっていて、おそらく見せてくださいと言えば見せてもらえるのでしょうか、この懇談会において全部は議論できなくても、もう少し内容のあったものを出してもらえないかなと思います。

全部についてそう思っていて、これからは質も大事で、目標値を達成したらよしということではなくて、現実、保育所や学童保育所、病院において市民は質を問うて来ますので、このあと次の計画を策定していくとのことですので、その辺りも頭の片隅に入れて、資料を委員に見せていただきたいと思っております。

○田中座長

事務局そちらに対していかがでしょうか。

○事務局

委員のおっしゃるように、若い世代応援プロジェクトのKPIである保育園待機児童数、学童保育所待機児童数について、こちらを減らす取り組みを行い、八千代市が子育てしやすいまちと感じる市民の割合の向上につなげていく必要があると考えております。

御提示した資料の中ではそういった部分が詳しく触れられていないとの御指摘につきましては、今後、進捗状況を踏まえて、次期計画における子育てしやすいまちと感じる取り組みについて検討し、御提示してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

○佐藤委員

ぜひよろしくお願したいと思っております。今は子育てに特化して言いましたけど、他の事項でも同じでございまして、例えば「八千代ふるさと親子まっぷ」を2万部発行とありますが、20万人の都市で2万部発行して、これがいかに活用されているかの記載がないので、発行したから何なのか、私では判断できないのですね。例えば、それを学校で活用して社会科に活

かしているですとか、具体的なもう一歩について、やっと計画が進んできたところなのであれば、ぜひ色々な部署を超えて検討していただいた方が、せっかく予算を使って発行しているので、細かなことを言うと全てにおいてそうですが、子育てだけでなく全般的にそれはお願いしたいと思います。

○田中座長

保育園や学童保育所の待機児童数の件ですけれども、子ども・子育て会議では詳しく議論や報告されていて、ここに全部載せるのはなかなかできない面もあると思いますが、特に保育所の待機児童数は以前に比べるとだいぶ減っていて、平成 29 年度の 144 人から 30 人程度に減っている訳ですけれども、内訳を見ると 1 歳児と 2 歳児が多くなっていて、小さいお子さんが多くなっている。それから、学童保育所について調べたら 3 年生と 5 年生が非常に多いので、この辺がなぜ多いのかも含めて、突っ込んだ議論をすべきではないかと思います。

○佐藤委員

そのとおりでございます。もちろん詳細まで全ての議論をこの場ではできないので、情報としていただけたら、もう少し別の意見で申し上げられたのかなと思いますので、よろしくお願いたします。

○田中座長

ほかにございますでしょうか。町塚委員どうぞ。

○町塚委員

基礎的な質問で恐縮ですが、基準値と目標値について、その定義を教えてくださいよろしいですか。

○田中座長

事務局お願いします。

○事務局

基準値につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました平成 28 年 3 月において把握している最新の数値でございます。市民の割合を測る指標につきましては、平成 27 年度に行った満足度調査の結果を基準値としております。目標値につきましては、この総合戦略が当初 5 か年の計画として策定しておりますので、令和元年度の数値を目標値として設定しており、昨年度計画期間を 1 年間延長しまして、1 つの項目は目標値を変更しておりますが、そのほかの項目については目標値を変更せずに令和 2 年度を目標年度として設定し、各施策に取り組んでいるところでございます。項目によっては総合計画と同一のものもございますので、総合計画と整合を図りながら設定しているところです。

○町塚委員

基準値は平成 27 年度の数値で目標値は今年度の数値ということですね。

○事務局

全てにおいて年度末時点の数値ではございませんが、基本的にはそのような考えでございます。

○町塚委員

そうすると、残り半年でここまでキャッチアップすると受け取ってよろしいですね。

○事務局

目標値の達成が難しい項目もございますが、なるべく近づけるように取り組みを進める必要があると考えております。

○田中座長

よろしいでしょうか。続いて田中委員お願いします。

○田中委員

資料 1-1 の最後のところに、災害に備えた対策が適切に行われていると感じている市民の割合ということで、基準値が 19%、実績が 20.7%、目標値が 33.9%ということで、ほかの項目に比べますと極めて低い数値になっているのかなど。逆に言えば 8 割の人が不安を感じているとの数値になっているのですが、自然災害に対して 100%対策が図られていることは難しいとしても、全国平均もこれくらいの数値なのかというのが 1 つ目の質問です。

我々が業務の中で接していることで感じるのが、高齢者で老朽化した戸建て住宅に住んでいる方で、耐震検査の結果で大地震が発生した際の基準に達していないことが判明しているにもかかわらず、補強工事をするお金がない、年金暮らしでローンも組めないとのことで問題を先延ばしにしている方も数多くいると聞いております。これは危機管理課さんですとか建築指導課さんの担当になると思うのですが、台風であれば事前に避難もできますが、地震の場合はそのまま人命に直結しますので、この辺の対策についても取り組んでいただければと感じました。以上です。

○田中座長

たしかに八千代市はどちらかというと、地震や台風の被害が比較的ほかの市より少ないと言われております。安心・安全なまちと言われていて、それが売りだと言われておりますけれども、ただこの数値が 20%というのがどういう意味を指しているのか、例えば市庁舎や道路の問題ですとか、逃げられる場所や避難場所が確保されているのか、色々な問題があると思います。その辺を良く見ていただければと思いますが、何か事務局からございますか。

○事務局

災害等への対策につきましては、次期総合計画を策定している中で、安心・安全なまちづくりを掲げて策定を進めているところでございます。防災関係につきましても、国土強靱化の計画も八千代市版の計画策定に向け進めているところでございますので、災害に向けた対応がきちんとできるまちづくりを進めていきたいと考えております。

○田中座長

よろしいでしょうか。ほかにございますか。上大川委員どうぞ。

○上大川委員

この KPI の指標を見て、定量的な指標はある程度行政側で把握可能かと思いますが、定性的な指標は市民がどう感じているかについて、どのような形でアンケート調査を実施しているのか。どの程度のサンプル数で回収率はどの程度なのか、教えていただきたいです。

○事務局

満足度調査について、18 歳以上の市民を対象に無作為抽出による 3,000 人を対象に実施しており、回収率は 32.4%となっております。

○上大川委員

何に満足していて満足していないのかについての質問はしていますか。満足しているかの質問だけなのか、満足していると感じていない場合に何が足りないのか、理由を聞いているアンケート項目はないのでしょうか。

○事務局

各項目に対して 5 段階の回答方法となっていて、それぞれ具体的に理由を聞く設問はございません。

○上大川委員

先程も質問ありましたが、この項目の結果が低いけれどもなぜ低いのかについて、市民から聞いてはいないとのことですので、例えば道路整備ができていないというだけではなく、ある程度主観的なもので市民の方が選んだものが数値として表れているという理解をいたしました。

○田中座長

ちばぎん総研では、定量的と定性的を見て総合的な評価を行っていますので、詳しいことはわかりませんが、そういった評価もありますので、全体的に見ていくことが必要な気がします。

## ○町塚委員

上大川委員からもありましたが、もう少し詳細な調査をしていただくと良いのではと感じます。例えば主要な KPI の災害に備えた対策が適切に行われていると感じている市民の割合ですと、そう思いますかという設問だけでなく、3つ施策を並べて、この施策をご存じですかと聞き、知っている人は満足している、知らない人は満足していないとすると、知っているか知らないのかが重要なポイントになるでしょうから、知っていただく努力をするようになります。この施策を知っているにもかかわらず、満足していない比率が多いとすると、施策が的を得ていない可能性がある、もしくは違う施策を期待しているとも考えられるので、次の手に具体的につながるようなアンケートになっていると良いのではないかと思います。

### (2) 第2期総合戦略について

## ○田中座長

よろしいでしょうか。他にございますか。それでは無いようですので、次の議題に移りたいと思います。

議題(2)「第2期総合戦略について」事務局の説明を求めます。

## ○事務局

それでは、議題(2)「第2期総合戦略について」、説明させていただきます。恐れ入りますが、着座にて失礼いたします。

それでは、お手元にあります資料2-1をご覧ください。

まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成26年11月に施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少への対応と活力ある地域社会の形成に向けた目標と具体的な施策を定めた計画となっており、本市では、平成28年3月に、「八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところですが、計画期間が平成27年度から令和2年度までとなっていることから、第2期総合戦略の策定に向けて取り組んでいるところでございます。

まず、第2期総合戦略の策定に向けた背景について御説明いたします。

1点目として、現行の総合戦略は計画期間が令和元年度まででしたが、現在策定しております「八千代市第5次総合計画」と一体的に策定する方針から、計画期間を1年延長しており、今年度をもって計画期間が満了いたします。

2点目として、令和元年12月に国の第2期総合戦略が策定され、「継続は力なり」という姿勢を基本に、横断的な目標として「多様な人材の活躍を推進する」、「新しい時代の流れを力にする」を加え、地方創生のより一層の充実・強化を図り、地方創生の動きを更に加速させていくことが示されております。

このような背景を踏まえまして、第2期総合戦略の策定に向けた基本的な考え方について御説明いたします。

1点目として、第5次総合計画との一体的な策定でござりますが、総合計画は、本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進める指針として行うべき政策・施策を体系化した市の最上位計画であり、その策定に当たって、基本構想、基本計画、実施計画のそれぞれにおいて、総合

戦略の趣旨を踏まえて策定していくこととさせていただきます。

2点目として、横断的な視点として追加された、世界に先駆けた「超スマート社会」の実現を目指す Society5.0 の推進や、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を目標年限とする国際目標のSDGsの理念を取り入れることなど、国及び千葉県の第2期総合戦略を勘案し、策定していくこととさせていただきます。

なお、留意すべき点として、新型コロナウイルスの感染拡大への対応として、「新しい生活様式」の定着など社会変化が生じていることから、アフターコロナを見据えて、今後の社会情勢を注視するとともに、状況に応じて臨機応変に対応していくことが必要であると考えております。

次に、資料2-2及び参考資料2-1を併せてご覧ください。

現在策定中の第5次総合計画では、現行の第4次総合計画で掲げる「都市と自然とのバランスを活かしたまちづくり」や、「誇りと愛着」、「安心して暮らせるまちづくり」に加え、基本構想・基本計画・実施計画の三層構成といった基本的な考え方を踏襲した計画となっております。

このうち、基本構想につきましては、長期的な視点から、八千代市のまちづくりを進める上での基本理念と将来像を示すとともに、将来像の実現に向けた施策の大綱を示すものとして、資料2-2「八千代市第5次基本構想（素案）」のとおり作成し、8月から今月にかけて実施しましたパブリックコメントの意見なども踏まえて、年内に策定する予定とさせていただきます。

基本構想の全てをこの場で説明することは割愛させていただき、主な点について御説明いたします。

初めに1ページの第1章「将来都市像」につきまして、8年後の目指すまちの姿を表現するものであり、行政と市民が目指す方向性やイメージを共有するために設定いたしました。基本的には、現行計画の「快適な生活環境とやすらぎに満ちた都市 八千代」に込められた考えを踏襲しつつ、市民意識調査等で寄せられた市民からの意見等を参考に、柔らかい表現を心掛け、言葉や表現を整理し、「人がつながり 未来につなぐ 緑豊かな 笑顔あふれるまち やちよ」といたしました。

次に2ページの第2章「基本理念」につきまして、総合計画の期間よりも更に先の将来にわたるまちづくりの理想・市民の道しるべである市民憲章から設定しております。基本理念は、まちづくりに対する基本的・普遍的な内容であることから、その重要性はこれからも変わることはなく、これまでの取り組みとの継続性の点からも現行の基本構想の基本理念を踏襲しておりますが、「誇りと愛着」の説明部分で「住んでいたいと思う」という表現を、地方創生の移住・定住してもらいたいという願いを込めて追加をいたしました。

次に3ページ以降の施策に関する部分において、総合戦略の趣旨を取り入れた主な点で申し上げます。

初めに、4ページの「ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり」において、これまで「子育て」の施策は、「社会福祉」という施策の中で、高齢者や障害者福祉などと合わせて推進してはいたりましたが、総合戦略では少子化対策への課題として子育て支援が重要な

位置付けの1つとされていることを踏まえまして、「子ども・子育て」を第一に位置付けております。

次に、9ページの第5章「構想の推進のために」の第3節「多様性のあるまちづくりの推進と魅力発信」において、SDGsの理念である多様性、包摂性のある社会の実現を目指すとともに、地域資源の魅力を様々な機会を通じて効果的に発信するシティセールスを展開し、誇りや愛着が持てる魅力的なまちづくりに向けた取り組みを位置付けております。

このほか、地域経済の活性化や産業振興といった取り組みに加え、テレワークの導入やワークライフバランス等の働き方改革への適切な対応なども求められることから、今後は基本計画の中で具体的な施策の展開を検討してまいります。

次に、資料2-3、参考資料2-2を併せてご覧ください。

こちらは、新型コロナウイルスの感染拡大の防止や、感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活の支援、家賃支援を含む事業継続や雇用維持等への対応、「新しい生活様式」を踏まえた地域経済の活性化等への対応を通じた地方創生を図ることを目的に、国から交付される「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の対象事業として、本市が実施、あるいは実施を予定している現時点での支援策の一覧となります。

施策の区分として、地元中小事業者向け支援策、市民向け支援策、新たな感染拡大防止策に区分けしており、感染拡大により大きな影響を受けている中小事業者に対する支援金の支給や、子育てしている家庭への支援、全ての子ども達が学びを継続できる環境の整備、公共交通機関や介護サービス事業所、障害福祉サービス事業所における感染拡大防止に向けた取り組みの支援など、幅広い支援策を展開しているところです。

国では、参考資料2-2「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」のとおり、新型コロナウイルス感染症に対応した地方創生の政策の方向として、新たな日常に向けた強靱かつ自立的な地域経済の構築などを示しており、今後の取り組みについて検討してまいります。

本日は、委員の皆様から、第2期総合戦略についての御意見を頂戴し、策定に当たっての参考にさせていただきたいと考えておりますが、お示ししております基本構想は、計画全体を包含するため、抽象的な表現が多くなっております。

具体的な取り組みにつきましては、現在策定を進めている基本計画において、第2期総合戦略の取り組みとの整合を含めて検討してまいりますので、御意見の程よろしく願います。

以上で、議題(2)「第2期総合戦略について」の説明を終わります。

○田中座長

ただいま事務局から説明がございましたが、本懇談会の目的は八千代市のまち・ひと・しごと創生に向けて、様々な視点から意見を述べることとなっております。第2期総合戦略は、今後総合計画と整合を図りつつ、策定を進めていくとのことですので、八千代市における人口減少の対応や地域活性化に向けて、皆様の御意見や御質問がございましたらお願いしたいと思います。

佐藤委員どうぞ。

## ○佐藤委員

先週資料を頂戴しまして、第5次基本構想の素案が資料として入っておりましたので、一読させていただきました。非常にふわっとした内容で、これで8年いくのかなというのが正直な感想で、およそこのふわっとした内容で危機的な人口減少における対策が取れるのかなというのが正直なところです。わかりやすく表現したと資料の中にも入っておりますが、わかりやすいのと具体的で説明がしっかりできているのとは、少し違うのかなと思いました。

八千代市の第4次基本構想はいったいどうなっていたのかと思って確認しましたところ、資料の枚数で20ページございます。第2節の中に将来都市像と実現のための6つの柱ということで、かなり具体的な内容で、1つ目は健康福祉都市をめざして、2つ目は教育文化都市をめざして、3つ目は環境共生都市をめざして、4つ目は安心安全都市をめざして、5つ目は快適生活都市をめざして、6つ目は産業活力都市をめざしてと具体的な施策となっていたものが、わかりにくいとは思わなかったのですね。それがこの5次の8年間では、ふわっとした内容なのですね。

全てにおいて私からこれはどうなのでしょうと聞くのは、できるだけ控えた方が良いと思いますが、例えば第5次基本構想の4ページの子ども・子育てで「いつでもSOSができる相談体制の整備が求められています」について、なんとなく良いのですが、相談体制だけなのかと、相談した後どうしてくれるのかと、相談するということは状況に困難があるということなので、そこにどう対応いくのかと思います。その後の地域福祉では「共に支え合う」や「相談体制の推進」、「地域全体でお互いが支え合う」とあって、じゃあ市は何をやってくれるのですかというように、穿った見方をすればそうなりがちな表現になっているのかな、端的に表現していただいた方が良いのかなと思います。

読み進めて6ページの暮らしの安全を見ると、「自らの命は、自らが守るという自助の意識と、自分たちの地域は、自分たちで守るという共助」とこれが先に来てしまっていて、自助をするということは災害に対する防災知識がないとできないことなのですね。まず自助をやってくれと、その後共助をやってくれと、いよいよ難しい人には自治体がなんとかカバーしますとなって、これでは無いのではないかなと。自助をするための体制を行うとか、そういった具体的なところについて、前の4次と比べると大変抜け落ちてしまっていて、これを基にして総合戦略を話し合わないといけないのかなと思いました。基本構想自体はふわっとしているので、どのように取ってもいいということであれば、総合戦略のところで具体的に書いてくれるのだろうかと思いました。

本日は概要版でこれまでのものしかありませんが、先程のKPIの目標値でいうと、質的なところを問うようなことをこれまで市民にしてこなかったもので、その中で総合戦略の具体的な内容というものをどうやって作成して、私は委員として何をもって良いや悪いを言えいいのかないかなということが、資料を読んでいて正直に思ったところです。

これまで八千代市は、人口が急激に減るような危機的な状況に直結しなかったですし、東葉高速の整備などもあって若い人達が社会増で増えていたのもあって、現実的に状況の把握をしていないのかなと、私は一種の危機感を持って本日まいりました。

このまま総合戦略で具体的な指針が出せないまま行くということになると、社会増で奪い合って負けてしまって、八千代市は他の市と比べるとあまりやってくれないよねとなると、ますます人口減少に拍車がかかってしまうのではないかと。具体的な施策はこれからしっかりとやっていかれるのかも含めて、市のお考えをお聞かせいただけないかと思って、今日は足を運んでまいりました。

○田中座長

事務局をお願いします。

○事務局

第4次総合計画が終了を迎え第5次を策定するに当たって、基本構想につきましては8年間の指針を示す抽象的な表現とさせていただいているところがございます。第4次総合計画の中にあつた将来都市像を実現するための施策の大綱で具体的な取り組みを記載する部分がございますが、基本計画と重複して記載されていた部分がございますので、第5次基本構想策定に当たっては、重複している部分を割愛させていただいてスリム化を図ったところでございます。具体的な施策の取り組み内容につきましては、基本計画において施策の体系を整理したものを記載していく形になります。

柱の表現につきましては、どういったまちづくりを目指すのかを考え、表現方法を変えたところでございます。施策の大綱にある表現につきましては、全てを網羅しているところではありませんので、さらに細かい内容の部分につきましては、それぞれ施策の大綱からさらに述べていき、基本計画の中で整理して記載させていただきたいと考えております。

また、素案の内容につきましては、市長の諮問機関である総合計画審議会においても構成の表現方法や取り組み内容について諮問しております。内容について御意見をいただいた上で、最終的に調整してまいりたいと考えております。

○佐藤委員

やっぱりまだわからなくて、この基本構想があつて基本計画があつて、それが各施策に落とし込んでいく形になると、その上の基本構想がふわつとした内容で、総合戦略をきちんと落とし込めるのかなというところが、正直わからないです。第4次は細かくて重複していたところの表現ぶりを直したとありましたが、明らかに全く違う内容になっていて、変な話をいうと、第4次は間違っていたのかと取れなくもなくて、なんでこんなに変えないといけないうのかと、諮問機関で意見が出なければ、それはそれという話になるのでしょうか、第4次と第5次を見比べた時に率直にそう思いました。パブリックコメントがあるようでしたらそこで御意見するようにして、ここではこれ以上申し上げませんが、例えば相談体制の整備は、それだけではもうないので、どうしていくのか調整を図っていただきたいです。また、教育のところが一番気になっているのは、「市内の高等学校・大学との連携を働きかけ」で、働きかけというのは言うだけでも良いので、何か協力してくれませんかと言えば働きかけになって、やっているように文章からは感じるけれども、大学などに働きかけて協力を得られなか

ったとしても行ったことになるように見えてしまうので、このふわっとした内容で総合戦略はどの程度反映されるかというのは、この場で決めるという理解でよろしいでしょうか。

○田中座長

事務局お願いします。具体的な内容は基本計画とありましたけど、これはいつ頃出てくるのでしょうか。

○上大川委員

すみません確認で、本日は議題にあるとおり第2期総合戦略や第5次総合計画について御説明をいただいているところですが、第5次総合計画は基本構想の次に基本計画、実施計画を作る3層構造となっていて、前期・後期と分けて基本計画を策定していくと思いますが、それとリンクさせた形で総合戦略を策定していく中で、第5次総合計画を策定する前の段階で基本構想を御提示いただいて、それについて意見を述べるということでもよろしいでしょうか。まち・ひと・しごと創生総合戦略ではなく、リンクする総合計画の基本構想について意見をすることでしょうか。

○事務局

一体的に策定していく方針で進めております。

○上大川委員

そうですね。こういう構想の基に計画を策定したいという市側の意見に対して、どう考えるかを委員に聞いているので、具体的なものが現段階で示していない中で意見というのは、作るに当たっての意見なら良いと思いますが、無いものに対してはなかなか議論にならないのではないかなと正直思います。

○田中座長

基本計画はまだまだこれからとのことですので、ただ表現の仕方としてこれで良いかについて意見を述べることはできると思います。

○事務局

資料の2-1にありますけれども、あくまで総合戦略の策定はこれから考えていくところで、第5次総合計画の基本計画は市全体の計画となっていて、今回お示したのは基本構想という考え方の幹の部分であって、それを方向性として捉えていただき、今後その方向性に肉付けしていくものが基本計画であったり、実際の事業の推進に当たって実施計画に総合計画として位置付けていくことが、いわゆる3層構造として今回御説明させていただいているものでございます。

その基本計画や実施計画の部分に対して、今回、総合戦略についてKPIなどお示ししておりますけれども、それと関連づけていく状況でございますので、曖昧さや抽象的との事務局

の説明もございましたが、前回の第4次については基本構想の段階で、すでに施策の大綱と  
言いながら施策そのものが決まっていた。今回はあくまでも施策の大綱として、例えば  
子ども・子育てや教育についても、本来はその下に色々な施策が分かれてできている部分も  
ございますので、そういったものについては次の段階で位置付けていくことになります。

結果として、厚さや文章量といった問題ではございませんが、のってくる中身としては変  
わらずに、もう少し細かい内容も含めてこれから作らせていただきたいと考えております。  
総合戦略につきましては、市が行うべき施策の部分と国が示している新たな総合戦略の考え  
方で、今回は新型コロナ関連も盛り込まれておりますので、そういった部分も含めて、総合  
計画の中の基本計画と総合戦略というものを上手く連携させる形で計画を策定してまいりた  
いと考えております。

#### ○佐藤委員

何度も申し訳ありません。それは承知しております、総合戦略の上に基本構想があると  
なると、基本構想の中に入っていないことは総合戦略の中に入れられないんじゃないかと思  
ってまして。

#### ○事務局

あくまでも総合計画というものは、基本構想、基本計画、実施計画が一体となって総合計  
画となります。ですので、基本構想は全体の考え方の部分であって、そのものだけで全体の  
計画が動く訳ではございません。これから策定していく基本計画、実施計画と一体として考  
えていただきたいと思います。

#### ○佐藤委員

一体として考えられないので、相談体制の整備で終わってはいけないんじゃないかとい  
うことで、これを基に総合戦略を考えるのかなど、私は痛切に思った訳です。全ての自治体の  
施策そのものは、決まった範囲、尺度の中でしかできないと考えると、なんでこんなに変わ  
るんだろうということは当然あって、総合戦略の中でもっと効果的な戦略をこの場で議論す  
るということになると、何も細かなことを書いて欲しいと言っている訳ではなくて、現状認  
識の乏しさがもし言葉の中に入っているのであれば、まだ素案なので全体として見直してい  
ただくということもできると思いますので、次のお話につなげるためにもあえて色々申し上  
げさせていただきました。

その辺りをわからずに申し上げた訳ではないのですが、言葉の表現が悪かったのであれば  
申し訳なく思いますがそういうことでございますので、総合戦略の中で、アフターコロナや  
ウィズコロナについても検討されるとのことですので、そういう理解で御協力してまいりた  
いと思います。

#### ○事務局

こちらの従前の資料の説明が上手く伝わらなかったようですので、こちらの反省材料とし

て次にお示しさせていただく際には、今のお話も踏まえまして御説明させていただきたいと考えております。

○田中座長

よろしいでしょうか。総合計画審議会では素案については、十分議論し審議していくとのことですので、よろしく願いいたします。

ほかに何かございますでしょうか。田中委員どうぞ。

○田中委員

この後色々肉付けされていくと思いますが、最終的には市民の方も見られるようになるのでしょうか。例えば市民の方がご覧になって、この市に住み続けたいと思ってもらえるようになることが目的だと思いますが、どういった形で市民の方が見ることができるのか。ホームページはありますが常に見ている訳ではないと思いますので、市民の方にどう周知していくのかについてお考えをお聞かせいただければと思います。

○事務局

総合計画につきましては、これまでの取り組みや進捗状況をホームページでお知らせしているところでございます。基本構想案については、最終的に調整した上で12月の議会に上程して議決をいただいた後に、令和3年度から総合計画を始める予定ですので、基本構想、基本計画、実施計画の内容につきまして、広報やホームページで御報告させていただきます。また、総合計画の冊子は、図書館などに配架して閲覧できる形にいたします。ホームページは総合計画のデータを掲載し、見られるような形を考えております。

○田中座長

よろしいでしょうか。他にございますか。町塚委員どうぞ。

○町塚委員

基本構想の書かれている内容は総花的になりがちと感じます。総花的というのは、色々な分野に対して取り組みますということになります。人口も将来的に減る見通しですし、市役所の職員も簡単に増やせずできる仕事の量が限られているとすると、総花的にならざるを得ないと思いますが、できればメリハリを付けて、どこかに力を入れる形になった方が好ましいのかなと感じます。どこに力を入れるべきかは非常に難しいと思いますが、それが八千代市としての特色につながるのではないかと思いますので、メリハリについて御検討いただいた方がよろしいかなと思います。

○田中座長

今の意見に対して事務局いかがですか。

○事務局

委員おっしゃるとおり、全体的に網羅したため、総花的であり抽象的な表現がございます。具体的には施策の中で子ども・子育てにつきましても、少子高齢化への対応として重視すべき考えがございまして、1つ目の柱の初めにこれまで無かった施策の大綱を位置付けたところでございます。

具体的な施策については基本計画の中で記載していく形になりますが、全てを実施していくことは財政的にも難しいところがございますので、基本計画の策定の中で重点的な施策を掲げて取り組んでいきたいと考えております。

また、先程基本計画のスケジュールについて御質問ありましたが、11月頃を目途に素案を作成しまして、その後パブリックコメントを実施していく予定です。

○田中座長

12月議会に基本構想と基本計画を挙げるということでしょうか。

○事務局

議決事項となっているのは基本構想だけとなりますので、基本計画につきましても素案作成後パブリックコメントを行い、今年度中の策定を予定しております。

○上大川委員

11月頃に基本計画のパブリックコメントを行う予定で、基本構想の全体は12月議会に見ていただくスケジュールということでしょうか。

○事務局

議決事項は基本構想だけですが、基本構想の内容に当たって基本計画が必要となりますので、先程お話ありましたが、総合計画は全体を網羅しており、総合戦略は其中で今の少子高齢化などの課題に対して、市としてどう応えるかについてピックアップしたものをイメージしていただければと思います。全ての事業がある中で総合戦略はどの部分が該当するのか、少子高齢化や人口減少への対応をまとめたものを総合戦略としていく考えでございます。皆様には合わせて御提示しないと御意見いただけないと思いますので、次回以降できるだけお示しさせていただきたいと考えております。またそれが八千代市の総合戦略の考え方となりますので、それに対して御意見を賜ればと思います。

○上大川委員

現時点で構わないのですが、資料の2-1の基本的な考え方の中で、Society5.0の推進やSDGsの理念を取り入れるとありますが、SDGsは今のトレンドとしてかなり聞きますが、色々な計画の中では言葉だけが出てきてどう使っていくのか、八千代市だけではなく千葉県もそうなのですが、今の段階でどのような形で市民の方にわかっていただくように計画の中に入れていくのか、お考えはございますか。

○事務局

考え方になってしまうのですが、SDGsの持続可能で多様性、包摂性がある世界を目指すという大きな考え方がございます。その中に取り組むべき目標とターゲットが多数設定されておりますが、そのターゲットについては、市が取り組むべき課題と結果として表される社会が書いてございますので、今後もう少し細かい施策や事業で計画を作っている訳ですが、それぞれの施策に対して17の目標と169のターゲットがこういった形で結び付くかについて、何かしら表現させていただきたいと考えております。

○上大川委員

17の目標を主な施策の中で、この考え方はこの施策に取り入れている表を載せている自治体があって、今の段階で市民の方にSDGsを理解してもらうのはなかなか難しいところがありますが、世界的に取り組んでいく考え方ですので、目に触れる形で載せていただくと良いのかなと思います。

(3) その他

○田中座長

他によろしいでしょうか。それでは無いようですので、次の議題に移ります。

議題(3)「その他」ですけれども事務局から何かございますか。

○事務局

今後の懇談会のスケジュールについて御説明いたします。参考資料の3をご覧ください。今後のスケジュールの案でございますが、本日、第1回懇談会を開催させていただき、基本計画の作成を現在進めており、総合計画と総合戦略の整理を進めまして、11月頃に第2回懇談会、2月頃に第3回懇談会を開催させていただき、今年度中の前期基本計画策定を予定しております。

説明は以上でございます。

○田中座長

ただいまの事務局からの説明について、御意見や御質問はございますか。

よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして本日のまち・ひと・しごと創生懇談会を閉会といたします。長時間にわたり御協力いただき、誠にありがとうございました。